

JASDAQ

証券コード:6267



Creativity & Challenge

株主・投資家の皆様へ

平成20年7月期(第47期)報告書

平成19年8月1日から平成20年7月31日まで

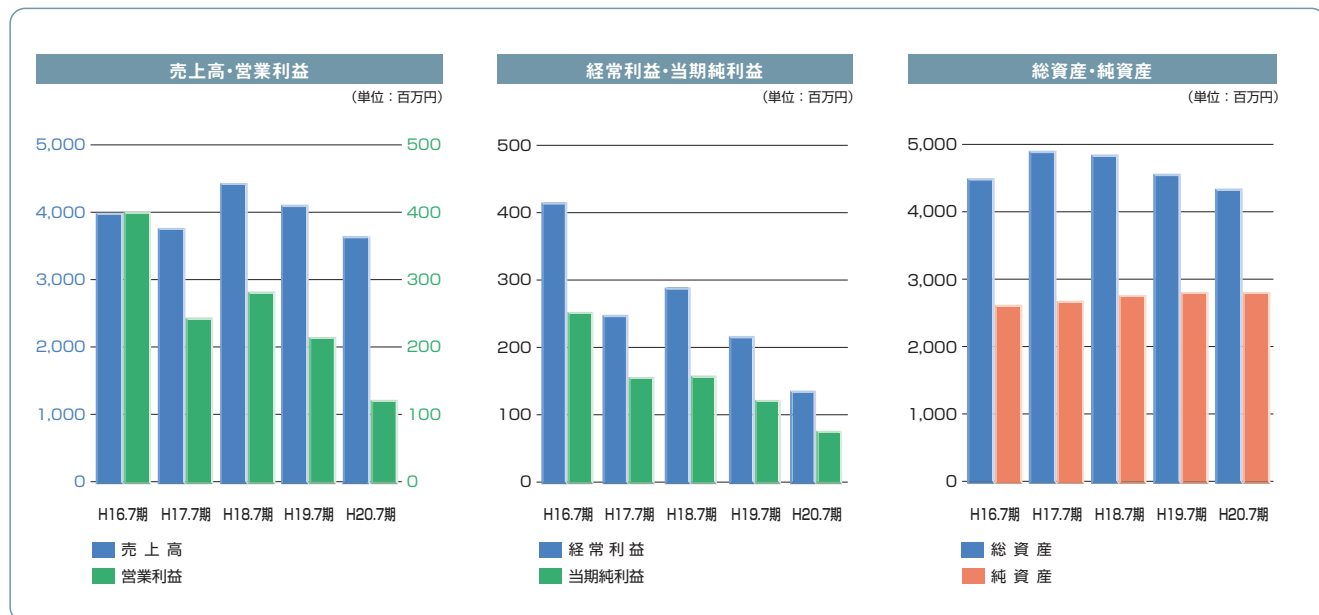


包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

(単位：百万円)

	平成16年7月期 (第43期)	平成17年7月期 (第44期)	平成18年7月期 (第45期)	平成19年7月期 (第46期)	平成20年7月期 (第47期)
売上高	3,983	3,726	4,394	4,074	3,597
営業利益	401	240	278	211	117
経常利益	412	245	285	213	132
当期純利益	249	152	154	118	72
総資産	4,463	4,870	4,824	4,539	4,310
純資産	2,587	2,644	2,728	2,782	2,782



代表取締役社長 梅森 輝信

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第47期の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

● 当期業績の総括

当期の包装機械業界は、原油価格高騰による包装材料のコスト増や食品原材料の高騰などを背景に、需要業界の設備投資需要は、依然として低調のまま推移いたしました。また、平成20年に入り、食品業界各社においては、中国製餃子問題の影響により原材料の調達先の見直しを迫られる企業も多数発生するとともに、原材料高の影響による収益悪化も顕著になってきたことから、設備投資計画の見直しの傾向が強まる状況となりました。

このような市場環境を背景に、当社の主力事業であるドライ分野の高機能・高価格機種需要は、減退傾向が強まるとともに、他社の単機能・低価格機種に一部流れる傾向も強まり、特に中小型案件の需要は、前期よりも大幅な減少となる大変厳しい状況で推移しました。

この中小型案件の需要減少の影響を受け、売上・利益ともに計画を大幅に下回るとともに、前期も下回る結果となりました。

● 第2次中期経営計画の推進

当社を取り巻く経営環境が厳しさを増している中で、既存の商品・市場のみの事業領域では、業績を大幅に回復させることが難しくなっています。

このような状況のもと、当社は『将来の飛躍を目指すための成長基盤再構築の時期』と位置づけた第2次中期経営計画(平成21年7月期～平成23年7月期)を策定いたしました。今後、新商品の開発と新市場の開拓を重要課題として、以下の基本戦略を推進してまいります。

『包装システムのトータルプランナーとして事業領域の拡大を目指す』

- ①商品競争力の強化と業界別ニッチトップ戦略の推進を図り、ドライ分野のロータリー式自動包装機国内シェアNo.1を維持する
- ②新たなマーケット開拓のために、独創的な商品開発を推進する
- ③システム事業の独自性を強化し、売上拡大を目指す
- ④中長期的に海外売上高比率20%を目指して、海外マーケット開拓の強化を図る
- ⑤事業・技術提携も視野に入れながら、事業領域の拡大を推進する
- ⑥将来の飛躍に向けた人材確保、人材育成の強化を図る

以上に掲げた事項を中心にして、成長基盤を再構築するための各施策を強化し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年10月

● 業績全般の概況

当社の営業活動におきましては、業界大手上位への重点営業、展示会出展による販売促進、新規顧客の開拓、海外販路の開拓等、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、新たな製品として、自社ブランドの印字検査装置の販売を開始し、拡販に努めてまいりました。しかしながら、食品業界の需要の減退傾向が強まり、特に中小型案件の需要は、前期よりも大幅な減少となる大変厳しい状況で推移しました。

受注高につきましては、大手企業の合理化投資を中心に大型案件の実績が一部回復したことから前期を上回りましたが、売上高につきましては、前期末の受注残高が少なかったこと、当期に売上可能な中小型案件の受注が低調であったことから、前期を下回る状況となりました。

この結果、当期の売上高は、前期に比べ国内食品業界向けの売上が減少するとともに、海外向け売上も減少したことから、3,597百万円（前期比11.7%減）となりました。また、損益面につきましては、売上高が低迷する中で販売費及び一般管理費を前期より削減することに努めましたが、売上高の減少と売上総利益率の低下に伴い、売上総利益が大幅に減少したことが

ら、営業利益は117百万円（前期比44.4%減）、経常利益は132百万円（前期比37.8%減）、当期純利益は72百万円（前期比39.0%減）となりました。

● 品目別売上高の状況

給袋自動包装機は、大手企業向けの大型案件の実績が増加したものの、中小型案件の需要が低迷したことに伴い、販売台数が大幅に減少したことから、売上高は1,802百万円（前期比9.3%減）となりました。

製袋自動包装機は、化学業界向けの実績は増加したものの、主力の食品業界向けの販売台数が減少したことから、売上高は546百万円（前期比10.0%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、主要顧客である削り節業界の需要の減少が続いていることに伴い、高価格機種の実績が減少したことから、売上高は97百万円（前期比24.6%減）となりました。

包装関連機器等は、自動包装機とのトータル包装システムの受注が低迷したことなどに伴い、高額システムの実績が減少したことから、183百万円（前期比55.4%減）となりました。

保守消耗部品その他につきましては、自社ブランドの印字検

査装置の販売を開始した効果もあり、高額保守案件の実績が増加したことから、売上高は966百万円（前期比3.0%増）となりました。

● 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、わが国経済は、大手企業の収益に減速感が鮮明になってきているとともに、民間設備投資や個人消費の減少がみられることから、景気は停滞基調が当面続くものと予想されます。

包装機械業界においては、原油価格高騰による包装材料のコスト増や食品原材料の高騰などの影響が続いていることから、最大需要先の食品部門の設備投資意欲は、全体として慎重姿勢が続くものと予想されます。

このような状況下で当社といたしましては、収益環境は厳しく見積らざるを得ない状況にあるとの認識のもと、成長基盤の再構築を図ることを重点方針として、海外販売体制の強化、食品業界以外の新規顧客開拓の強化、開発力の強化などに取り組み、業績の向上を目指してまいります。

次期につきましては、大手企業の合理化投資を中心に、大

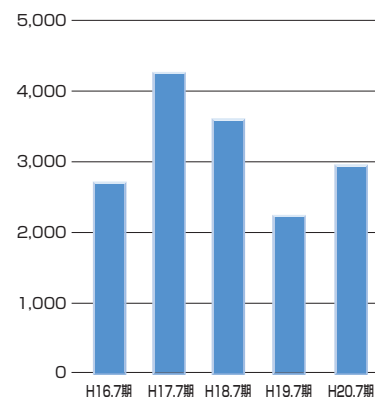
型案件及び高価格機種の需要については、設備投資計画の繰延べ分も含めて、一部回復が期待できる状況となってきたことから、大型案件の受注確保により受注高の増加を目指してまいります。また、期初の機械受注残高が前期に比べて増加していることに加え、大型案件及び高価格機種の実績の増加が期待できることから、売上高の増加を見込んでおります。

収益面については、成長基盤の再構築を図るための戦略的投資を増加させることなどに伴い販売費及び一般管理費の増加を見込んでいますが、高粗利益機種の販売台数の増加により、売上総利益率の回復を図り、営業利益の増加に努めてまいります。

以上により、次期の業績予想といたしましては、売上高3,800百万円（前期比5.6%増）、営業利益157百万円（前期比33.3%増）、経常利益160百万円（前期比20.8%増）、当期純利益80百万円（前期比10.8%増）を予想しております。

機械受注高

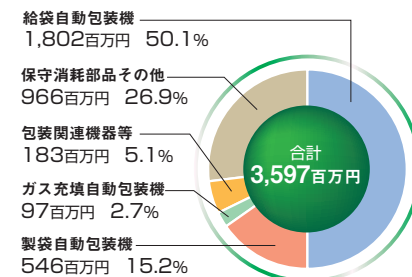
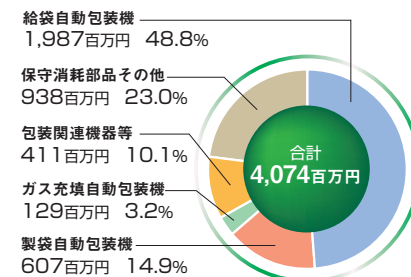
(単位：百万円)



品目別売上高構成比

平成19年7月 (第46期)

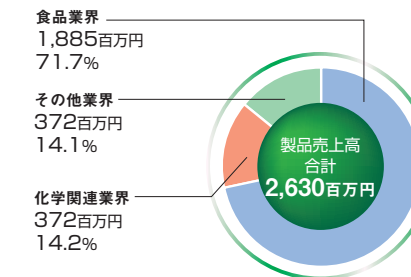
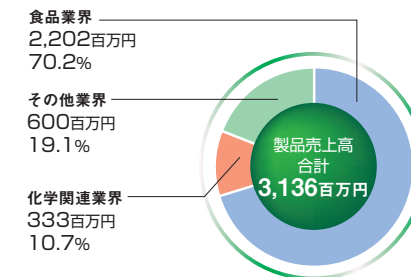
平成20年7月 (第47期)



最終ユーザー業界別売上高構成比

平成19年7月 (第46期)

平成20年7月 (第47期)



(注) 1. 製品売上高合計は、給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機、包装関連機器等の売上高合計であります。
 2. 食品業界には、精米・製氷・製粉・軽節業界等を含めております。
 3. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含めております。
 4. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等があります。

給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物(米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物)に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



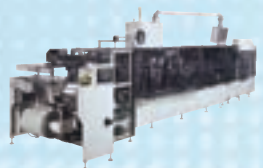
ガス充填自動包装機

不活性ガス封入(花かつお、コーヒー、ナッツ類、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物)により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装(精米、業務用スパゲティ、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液バック等)までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



イベント

2008中部パックに出展

平成20年4月9日から12日まで、ポートメッセなごやで「2008中部パック」が開催されました。これは「食と包装ものづくり、元気な中部が提案します」をテーマとした中部地区最大規模の展示会で、当社も毎回参加しております。

今回は6機種を出展。当社オリジナルの印字検査装置GP-NC100型を、主力機の給袋自動包装機GP-2000UST型とGP-700FZ-UST型に搭載する形で紹介しました。このうち、チャック付スタンドパウチ包装にも対応するGP-700FZ-UST型においては、(株)イシダ製計量機と連動し、ガゼット袋への包装を実演するとともに、ロータリー包装機用に開発されたイーデーエム(株)製新型小型サーマルプリンターと当社の印字検査装置による実演を行いました。



FOOMA JAPAN2008への出展

平成20年5月27日から30日まで、東京ビッグサイトで開催された「2008国際食品工業展 (FOOMA JAPAN2008)」においても、「2008中部パック」で紹介した2機種を出展しました。



袋高さ自動調整装置を搭載した給袋自動包装機GP-2000UST型については、毎分最高60袋の包装能力を有し、品種切り替えにもスピーディーに対応できる点をアピールしました。また、イーデーエム(株)製新型小型サーマルプリンターと最新のパターンマッチング検査方式を採用した当社の印字検査装置GP-NC100型との組み合わせによる実演を通して、従来よりもさらに幅広い印字・検査範囲を実現したシステムを紹介しました。

■ 貸借対照表

科目	当期(第47期) 平成20年7月31日現在	前期(第46期) 平成19年7月31日現在
資産の部		
流動資産	3,103,472	3,340,239
現金及び預金	947,976	1,196,942
受取手形	200,175	180,831
売掛金	1,048,045	926,451
たな卸資産	740,249	899,681
未収入金	127,268	96,413
その他	39,756	39,919
固定資産	1,207,434	1,199,171
●有形固定資産	964,618	857,928
建物	641,580	292,897
土地	280,603	280,603
その他	42,434	284,427
無形固定資産	6,624	2,106
投資その他の資産	236,190	339,136
資産合計	4,310,906	4,539,410

POINT 1

当期末の有形固定資産は、本社隣接地の新工場完成（平成19年8月）により、前期末比106百万円の増加となりました。一方で、同工場建設に係る建設仮勘定が無くなったことにより、その他の資産は減少しております。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第47期) 平成20年7月31日現在	前期(第46期) 平成19年7月31日現在
負債の部		
流動負債	1,319,373	1,534,823
支払手形	273,448	836,414
買掛金	687,681	241,250
賞与引当金	29,233	30,219
その他	329,009	426,939
固定負債	208,742	222,385
退職給付引当金	15,407	12,085
役員退職慰労引当金	193,250	210,300
その他	84	-
●負債合計	1,528,115	1,757,209
純資産の部		
株主資本	2,771,403	2,762,115
資本金	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269
利益剰余金	2,238,981	2,229,692
自己株式	△ 1,423	△ 1,423
評価・換算差額等	11,387	20,086
その他有価証券評価差額金	11,387	20,086
純資産合計	2,782,791	2,782,201
負債純資産合計	4,310,906	4,539,410

POINT 2

負債合計は、前期末比229百万円の減少となりました。これは主として、売上高減少に伴う仕入債務の減少と設備支払手形の減少によるものであります。

■ 損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第47期) 平成19年8月1日から 平成20年7月31日まで	前期(第46期) 平成18年8月1日から 平成19年7月31日まで
売上高	3,597,136	4,074,530
売上原価	2,674,112	2,987,721
売上総利益	923,024	1,086,808
販売費及び一般管理費	805,217	875,105
営業利益	117,806	211,703
営業外収益	16,680	8,966
受取利息	3,212	2,847
受取配当金	884	859
保険戻戻金	4,841	159
その他	7,742	5,100
営業外費用	1,864	7,485
支払利息	1,510	1,447
株式交付費	-	2,716
その他	353	3,322
●経常利益	132,622	213,184
特別利益	-	9
貸倒引当金戻入益	-	9
特別損失	14,707	5,680
固定資産除却損	56	1,227
減損損失	-	4,453
過年度製品保証引当金繰入額	14,650	-
税引前当期純利益	117,915	207,512
法人税、住民税及び事業税	45,196	81,872
法人税等調整額	506	7,246
当期純利益	72,213	118,392

POINT 3

損益は、売上高が前期比11.7%減少する中で、販売費及び一般管理費を前期比8.0%減少に抑制しましたが、売上総利益が前期比15.1%減少したことから、経常利益が前期比80百万円の減少となりました。

■ 株主資本等変動計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

(平成19年8月1日から 平成20年7月31日まで)	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
平成19年7月31日残高	251,577	282,269	2,229,692	△ 1,423
当期中の変動額				
剰余金の配当			△ 62,924	
当期純利益			72,213	
別途積立金の積立			-	
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)				
当期中の変動額合計	-	-	9,288	-
平成20年7月31日残高	251,577	282,269	2,238,981	△ 1,423

(平成19年8月1日から 平成20年7月31日まで)	株主資本	評価・換算差額等	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成19年7月31日残高	2,762,115	20,086	2,782,201
当期中の変動額			
剰余金の配当	△ 62,924		△ 62,924
当期純利益	72,213		72,213
別途積立金の積立	-		-
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)		△ 8,698	△ 8,698
当期中の変動額合計	9,288	△ 8,698	590
平成20年7月31日残高	2,771,403	11,387	2,782,791

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期(第47期) 平成19年8月1日から 平成20年7月31日まで	前期(第46期) 平成18年8月1日から 平成19年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,190	△ 137,277
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 251,232	△ 175,179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 62,924	△ 61,768
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	△ 298,965	△ 374,225
現金及び現金同等物の期首残高	1,196,942	1,571,167
現金及び現金同等物の期末残高	897,976	1,196,942

会社の概要

Corporate Information

■ 会社概要 (平成20年7月31日現在)

商号 ゼネラルパッカー株式会社
 英文社名 GENERAL PACKER CO., LTD.
 設立 昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
 資本金 2億5,157万7千円
 事業内容 各種自動包装機・荷造用機械及び
 周辺装置の製造・販売・修理、
 それに附帯する一切の業務
 従業員数 106名
 本社・工場 〒481-8601
 愛知県北名古屋市長福寺神明65番地
 Tel. (0568)23-3111(代)
 Fax. (0568)22-3222



本社

東京営業部 〒101-0045
 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
 神田木原ビル4F
 Tel. (03)3256-3891(代)
 Fax. (03)3256-3893

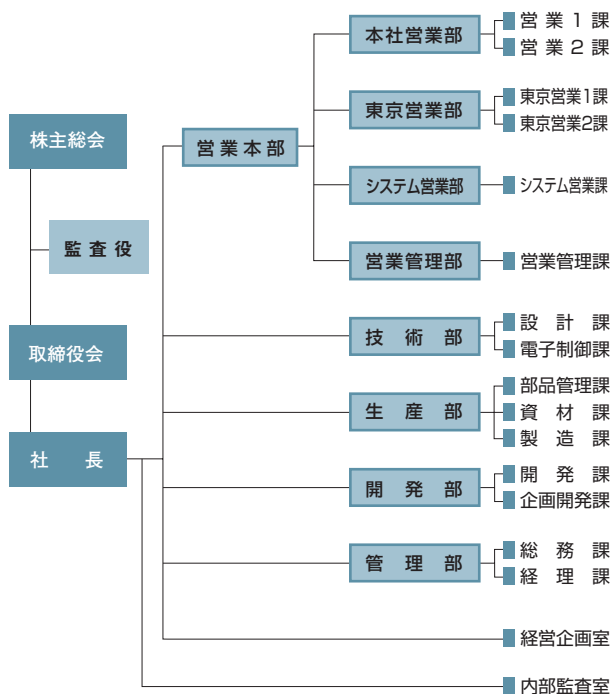


東京営業部

■ 取締役及び監査役 (平成20年10月22日現在)

代表取締役社長	梅森輝信	生産部長 兼開発部担当
常務取締役	島末孝法	技術部長
取締役	工藤誠一	営業本部長 兼東京営業部長
取締役	鈴木完繁	管理部長
取締役	小関幸太郎	
常勤監査役	谷口好旦	
監査役	村橋泰志	
監査役	西浦道明	

■ 組織図 (平成20年8月1日現在)



株式情報

Stock Information

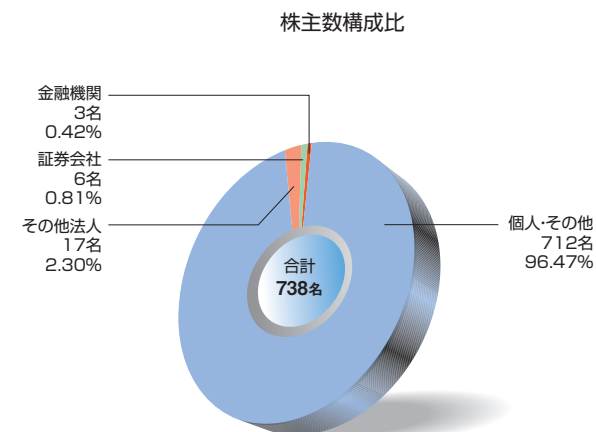
■ 株式の状況 (平成20年7月31日現在)

発行可能株式総数 28,000,000株
 発行済株式総数 8,994,000株
 株主数 738名

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,116,000	12.42
高野まさ子	800,000	8.90
原淳	751,000	8.36
株式会社りそな銀行	392,000	4.36
高野季久美	364,000	4.05
田中かな	364,000	4.05
りそなキャピタル株式会社	298,000	3.31
安江禎治	279,800	3.10
原利子	224,000	2.49
原晋一郎	224,000	2.49

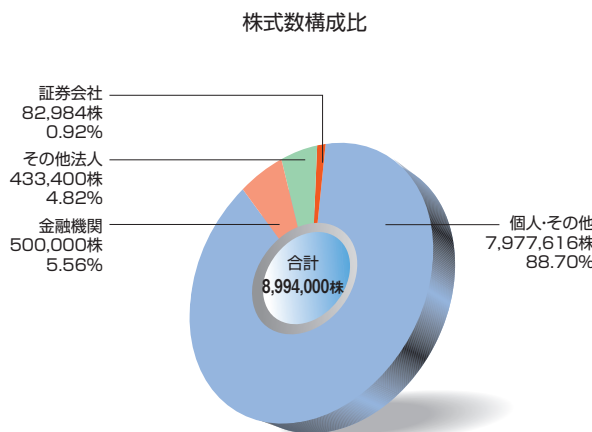
■ 所有者別分布状況



■ 株主メモ

事業年度 8月1日から翌年7月31日まで
 定時株主総会 10月
 基準日 定時株主総会 7月31日
 期末配当金 7月31日
 中間配当金 1月31日
 その他あらかじめ公告する一定の日
 株主名簿管理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 日本証券代行株式会社
 同事務取扱場所 〒460-0008
 名古屋市中区栄三丁目7番20号
 日本証券代行株式会社 名古屋支店
 Tel. (052)261-1781(代)
 同取次所 日本証券代行株式会社本支店
 公告方法 日本経済新聞に掲載

平成21年1月5日より
 電子公告により当社ホームページ
 (<http://www.general-packer.co.jp/>)
 に掲載いたします。
 ただし、事故その他のやむを得ない事由により
 電子公告をすることができない場合は、日本経
 済新聞に掲載いたします。



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市長福寺神明65番地
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893